

能登半島地震に関わる石川考古学研究会の取り組み

河村 好光

はじめに

2024 年元旦午後 4 時 10 分過ぎ、震度 7 を記録し、石川県能登地域を震源とする能登半島地震が発生し、奥能登（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）、中能登（志賀町、七尾市、羽咋市、中能登町、宝達志水町）で多くの人命が失われ、断水停電、建物倒壊、道路寸断、津波、火災、土砂崩れ等、甚大な被害を蒙った。発災直後から 7 月までの 200 日余、石川考古学研究会の取り組みを振り返ろう。

発災直後の対応（資料 1）

石川考古学研究会（通称：石考研）は、戦後間もない 1948 年に発足した民間研究団体である。現在、石川県内を中心に 250 名ほどの会員がいて、自治体関係職員・学芸員、大学研究者、地域の郷土史家・有識者、市民同好者などが加入している。

石考研は、発災翌日から会員の安否確認、文化財被害の実態把握を開始し、1 月 9 日までの集約によると、奥能登で避難所に身を寄せる会員が多数おり、能登の市町職員はほとんど、災害緊急対応に追われている。また、金沢城石垣被災（1 月 8 日発表）、前田家墓所、輪島市上時国家住宅の損壊報道は氷山の一角で、遺跡・史跡、歴史的建造物、考古資料展示館・出土品収蔵施設等の被害は予想以上に深刻であった。1 月 9 日・20 日、2 月 5 日・19 日に幹事会を開き、能登地区幹事もリモートで参加した。

石考研の能登在住会員は 40 名ほどである。多くは市町の埋蔵文化財担当職員か文化財保護審議委員など、地域の歴史遺産の保護活用、継承に携わっている。能登の自治体は、規模がみな小さく、実情は、1 名程度の埋文担当職員が建造物、古文書・書籍、石造文化財、民具など文化財すべてを担当している。意見交換の過程で、単にモノとしての文化財救出にとどまらず、被災自治体が直面する課題の共有、対策支援が重要と認識するに至った。また、「いしかわ史料ネット」はじめ県内関係団体との意思疎通、日本考古学協会など関係学会との連携をはかることとし、1 月 25 日、石川県庁に出向き、教育委員会文化財課に関係する機関・施設、団体を挙げたオール石川態勢構築を提言した。

2 月には、役員が中心となり、金沢大学の関係部門の協力を得て、週 1・2 回のペースで能登の現地を訪問、各市町の担当者と面会し、文化財被災をこの目で確かめ、実情を把握、記録する活動を開始した（資料 3）。

文化財救済事業と石考研の立場

2 月 13 日、文化庁・文化財防災センターが主導し、文化財レスキュー事業、文化財ドクター派遣事

業が始動する。文化財レスキュー事業とは、全国の参画支援機関・団体から週単位で隊員の派遣を受け、緊急に保全処置を必要とする動産文化財および美術品を救出、応急処置、一時保管を実施するもので、同地震被災文化財救援委員会現地本部が設置された。

3月以降、石考研は、上記現地本部県内支援団体として活動を開始する。ただそれは、会員に「石考研文化財レスキュー登録」を募り、専門性を生かし、土日・休日を中心に被災市町をボランティア応援するという、独自のスタイルとなった。今回の地震は、動産文化財のみならず、埋蔵文化財（遺跡）にも広範囲に被害が及ぶ。かかる想定外の事態に直面し、遺跡被害の現状確認、損壊遺構の応急処置等、適切で迅速、実効的対応が急務と判断した。金沢近郊・南加賀在住会員から50名近く応募があり、石考研事務局の采配で取り組みが始まった。本会提案を受け、救援委員会現地本部も救済対象に「遺跡」を明記し（4/2）、石川方式ともいえる埋蔵文化財を加えた文化財救援体制にすすむ。

むすびにかえて

このように石考研は、被災市町、文化財防災センター、県当局および関連機関・施設、諸団体・学会と連携し、能登半島地震に関わる実際活動を行ってきた。4月以降は、現地本部週次ミーティング発言録を参照頂きたい（資料2）。動産文化財のレスキュー（4/22、6/10）、考古資料展示館・出土品収蔵施設の保全復旧支援（4/22、6/10、7/15）、遺跡の現状確認（4/22、5/13）・緊急保全対策（5/7）など、多岐にわたり、7月末までの現地踏査・レスキュー活動は合計19日、参加者延べ150名であった。

なお付記しよう。事業開始から半年経ないこの時期、七尾市、能登町、羽咋市によるレスキュー資・史料の展示会開催は特筆される（7/22）。今後も、歴史遺産の継承を地域で担う市町、その担当者の取り組みを発信していきたい。また、事業の全体像をめぐり（7/1）、持続可能で中期的視点にたち、今後も提言すべきは提言したい。

8月1日、役員が県庁に出向き、「能登半島地震埋蔵文化財（遺跡）被災対応概要報告」を県文化財課に提出し、文化財レスキューの課題、埋蔵文化財保護体制、県の復興プランにおける文化財の位置づけをめぐり意見交換を行った。今後も真摯な協議を続けたいと考えている。

●資料

1. 『石川考古』第359号 石川考古学研究会会報 2024年3月26日刊行
小嶋芳孝「能登震災のお見舞いと文化財レスキューの現状・課題」
伊藤雅文「令和6年度能登半島地震と石考研（1～2月）」
2. 能登半島地震被災文化財等救援委員会現地本部週次ミーティング 石川考古学研究会（県内支援団体）発言録（2024年3月25日～7月22日 河村編集）
3. 能登半島地震文化財（遺跡）被災対応 発災6カ月（写真集） 石川考古学研究会

石川考古

第359号

能登震災のお見舞いと文化財レスキューの現状・課題

小嶋 芳孝

1月1日の4時10分、能登を中心として震度7の激しい地震に見舞われ、金沢でも激しい揺れが長い間続いて、とても怖い思いをしました。今回の地震でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りします。石川考古学会にも、震災で家屋の倒壊や津波の被害などで大変な苦労をされている会員が多くおられます。被災された会員の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

震災の直後は、石考研事務局で会員の安否確認を進めると共に、阪神・東日本・熊本の震災時における文化財や遺跡保護体制の構築経過を調査しました。阪神や東北各県と熊本県では震災発生後、県庁内で一週間ほどの内に文化財を救出する体制の構築が始まっていました。石川県の動きがなかなか見えない中で、1月中旬になると文化財の被害状況が断片的に石考研に伝わってきました。石川県の文化財救出方針を知るため、1月25日に私と河村副会長・足立幹事が県教委文化財課を訪ね、課長・埋蔵文化財グループと文化遺産活用推進室の担当者にとって意見交換をしました。私たちからは、被災した動産文化財（古文書や考古資料など）救出への対応として、石考研・能文連（能登文化財保護連絡協議会）・合同会社 AMANE が立ち上げたワーキンググループや民俗などの団体がレスキューに参画できるプラットフォームを県主導で立ち上げて欲しいと伝えました。この提案に対して拒絶はなかったのですが、積極的に進めるという返事もありませんでした。この日の午後に七尾市で能文連幹事会があり、文化財課長も出席したと後から聞きました。

この頃、私は能文連の東四柳会長にレスキュー団体として石考研・能文連・AMANE の連絡会を早急に立ち上げることを提案しています。2月9日に七尾で能文連が文化庁・文化財防災センターからレスキューについて説明を受ける会が開かれ、石考研からも河村副会長が出席しました。席上、文化財防災センターからレスキューについて基本的な説明があり、意見交換が行われています。同日、石川県は「被災した県内の文化財を救援・復旧支援するため、市町、独立行政法人国立文化財機構等と連携し、被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）と被災建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）に取り組むこととなった」と報道発表を行い、13日に石川県庁で国と県の文化財施設関係者の会議が開かれています。2月16日には、能文連が主催して民間レスキュー団体（石考研、いしかわ歴史資料保全ネットワーク、合同会社 AMANE）の連絡会が北国新聞社会議室で開かれ、各団体の取り組みや基本姿勢が報告されました。

県は文化財関係施設による救援組織を立ち上げ、能文連や石考研などの民間救援団体がその下部組織となるような構図になっていますが、県と民間レスキュー団体との意思疎通は十分とはいえません。県文化財課や文化財防災センターの説明では、市町から能文連に文化財レスキューを要請し、その情報が文化財防災センターと県で共有され、文化財防災センターが適切な民間レスキュー団体に救援要請をするとのことでした。3月8日段階で83件（輪島市19・珠洲市14・七尾市9・能登町12・中能登町4・羽咋市6・穴水町3・志賀町10・宝達志水町6）のレスキュー要請が能文連に報告されています。

各市町が所在を把握している文化財は、国・県・市町の指定文化財だけです。遺跡は「いしかわ文化財ナビ」で指定未指定にかかわらず所在を把握できますが、遺跡以外の未指定文化財リストが作成されているのは輪島市だけです。現状では、未指定文化財は所有者が市町に要請しないかぎり、救出ができない状態です。さらに、能登の文化財担当職員は、七尾市・羽咋市・中能登町を除くと一人かゼロです。文化財担当職員が、被災した文化財の状況を独力ですべて調査することは絶望的に困難と言わざるを得ません。今の体制では、能登の歴史資料の多くが失われてしまいます。

石考研では、考古資料の所在リストを早急に作成し、被災状況の調査と救出を市町職員に協力して実施したいと考えています。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

令和 6 年能登半島地震と石考研（1～2 月）

伊藤雅文

1 月 1 日 16 時 06 分に石川県能登地方に最大震度 5 強、4 分後の 16 時 10 分ごろに震度 7 を観測した。金沢でも震度 5 強が観測され、今までに体感したことない揺れだった。その後、2 週間以上にわたって震源地近くで震度 4 以上の強い揺れを継続し、現在も地震活動が継続し、毎日ある微細な地震で震度 3 程度の強い揺れも時折みられる。

1 月 2 日 会長指示の下、本会会員の安否確認をメールのやり取りでおこない、毎日確認情報を幹事に連絡した。1 月 31 日までおこなった。

1 月 9 日 幹事会、17 名参加。新年例会は中止、フォーラムは延期とした。また、国の文化財防災センターは、県から要請があれば動くとしたが、県から文化庁への要請の動きはない。

1 月 10 日 河村副会長から日本考古学協会災害対応委員会杉井 健委員長に震災概要を報告。県に先んじて、羽咋市では文化財が廃棄されないための取り組みを始めた。

1 月 12 日 雨の宮古墳群に生じた亀裂や七尾城跡石垣崩落箇所へのシート養生を実施。

1 月 13 日 ブログで新年例会中止を告知。

このころ、会長をはじめ幹事を中心に震災対応の記録や情報を収集に奔走した。そのさい、杉井 健氏をはじめ多くの方々、兵庫県や熊本県、宮城県、福島県、岩手県の考古学会や考古学関係者の方々に、多くの事例を紹介していただいたほか、参考となる資料をご提示・ご提供いただきました。お礼申し上げます。

1 月 17 日 小嶋会長と伊藤は、文化財レスキューをいち早く立ち上げた「令和 6 年能登半島地震被災資料対応 WG」と意見交換。能登町 HP で「地域の宝を捨てる前に相談」と広報。県は 16 日ようやく市町に文書で文化財を捨てる前に関係機関と相談することを地域に周知するようチラシを配付した。

1 月 20 日 幹事会、21 名の参加。能登の会員からリアルな被災状況の報告、レスキュー構築のために関係機関との連携を確認した。

1 月 23 日 県の関係機関（文化財課や県立美術館など）による連絡協議会が開かれたが、県文化財課は被災文化財救済体制作りに積極的でなく、次の開催もないとした。

1 月 24 日 本会のブログで、地震被害の文化財状況をアップし始めた。

1 月 25 日 小嶋会長・河村副会長・足立幹事が県文化財課に出向き県主導の救援体制を構築するよう申し入れるが、県の明確な反応はなかった。県は午後に能登文化財保護連絡協議会全体会議に出席。また、文化庁に救援依頼を出した。

1 月 30 日 小嶋会長が能文連東四柳会長と会談し、連携をもって進めることを確認し、北國総研がかかわることの説明もあった。9 日開催予定の能文連全体会議に本会がオブザーバー参加したいと申し入れ、許可いただく（河村副会長出席）。中野会員が NHK 夕方地域ニュースに生出演し、「文化財を捨てないで」と訴えた。メディアの力は強い。

2 月 5 日 幹事会、23 人出席。能文連に加盟する市町からの文化財救援要請を北國総研が集約することについて、能文連の対応を容認している県の姿勢に多くの幹事は疑問と不安を示した。

2 月 10 日 日本考古学協会 café de 考古学のパネラーで河村副会長が現状を報告。

2 月 12 日 七尾市金比羅宮の文化財レスキュー。

2 月 13 日 令和 6 年能登半島地震被災文化財レスキューと文化財ドクターの合同会議があり、これから国指導のもと救済事業が始まる。一方、奈良文化財研究所の WebGIS というかわ文化財ナビの連携は県からの申し入れにより断念する。

2 月 15 日 県は、市町に対して被災文化財の報告を、宝達志水町以北は北國総研に、それ以南は県とすることをオンライン会議で指示。

2 月 16 日 レスキュー関連団体の連絡会に出席。県主催ではなかったようだ。防災センターから救援事業について説明があり、北國総研が能文連に協力する形で救援要請を集約すると説明があった。

2 月 17 日 小嶋会長・河村副会長・足立幹事が珠洲市立珠洲焼資料館などを調査。しかし、収蔵庫まで見られず。

2 月 19 日 幹事会、21 人参加。文化財レスキュー事業の枠組みに参加するしか方法がなく、市町担当者の力になる方法を模索する。ボランティアについて検討。

2 月 24 日 小嶋会長・河村副会長・足立幹事・中野幹事が穴水と輪島に調査。

2 月 26 日 被災文化財救援事業週次ミーティングに本会も定例出席。具体的な救援作業の予定確認などの調整。

2 月 27 日 文化財防災センター小谷統括リーダーとレスキューについて意見交換をおこなったほか、石考研のできることを伝え、ボランティア体制作りに着手。

能登半島地震被災文化財等救援委員会現地本部週次ミーティング

石川考古学研究会（県内支援団体）発言録

2024. 3.25 第5回ぶんぼう週次MTG

石川考古学研究会の河村と申します。こんにちは。石考研から報告します。

3月20日に、七尾市と中能登町の遺跡・史跡を当該市町で文化財を担当している会員の案内で踏査しております。

七尾では横穴式石室古墳の現状確認を行いました。旧中島町殿山古墳石室に新しい崩落を認め、県史跡の院内勅使塚古墳は、奥壁上段の積み石に縦の亀裂が発見されました。能登島にある国史跡須曾蝦夷穴古墳は外見で見える限り大きな損傷は確認できませんでした。七尾市担当者との間で、古墳石室の保存方法や出土品管理について、意見交換を始めています。

中能登町では国史跡石動山の現状を確認しました。復元された大宮坊（おみやぼう）は、大きな損壊は免れましたが、復元石垣が崩落し、石造物の一部が損壊しています。いするぎひこ神社の拝殿は無事でした。

明日、3月26日は、能登町の遺跡・史跡、展示施設を町担当者に案内頂き現状を見て回ります。

なお、石川考古学研究会の立ち位置について補足しておきます。

石考研会員は約250名。そのうち能登在住は40名ほどで、その多くは市町の文化財担当か、有識者として地域の歴史文化遺産の継承に携わっています。一方、少なくない会員が被災している現状もあります。

石考研の取り組みは、被災市町の文化財保護をめぐる課題を共有し、支援していくことにあります。現在、県内の会員に文化財レスキューのボランティア登録を呼びかけています。40名ほどの申し出があります。4月以降、文化財防災センター、当該市町、石川県などとも連携し、実際活動に軸足を移していきたいと考えています。

具体的取り組みは、3つあります。

- ① 動産文化財のレスキュー（主として文防センターとの連携）
- ② 考古資料を中心とした展示・収蔵施設の保全復旧
- ③ 遺跡地の現状確認・影響調査

2024. 4.2 第6回ぶんぼう週次MTG

先週の活動を報告します。

3月26日に、能登町を訪問し、文化財を担当している会員の案内で、国史跡真脇遺跡と展示施設縄文館、松波城、

石考研文化財レスキュー登録の申込書

本会では、文化財防災センターや能登文化財保護連絡協議会および関係市町が行う令和6年能登半島地震で被災した考古資料をはじめとする文化財レスキューを手伝うことにいたしました。ボランティアとして参加いただける会員の皆様に文化財レスキュー登録をお願いします。

1 期間：令和5年～6年度（3月11日までに登録をお願いします）

2 内容：①被災現場から文化財を保全

②考古資料や遺跡（石造物も）の被災状況の確認

③被災した展示品や記録類の整理および応急的な復旧作業

④救出した文化財の移動・運搬、保管施設における整理作業

⑤その他、要請・依頼を受けた作業

3 装備：手袋、マスク、安全靴（推奨）、ゴーグル（必要な人）等、ご自分で用意してください。本会ではヘルメットとビブスを用意します。ビブス（3,000～4,000円程度）を買い取ることもできます。



4 流れ：レスキュー等要請をうけてレスキュー登録者に募集メール

↓
参加者を会を取りまとめ、多人数の場合調整させていただきます

↓
メールで出勤依頼 → 出勤：集合は羽咋市歴史民俗資料館（当分の間）

5 保険：ご自分が居住する市町の社会福祉協議会で**ボランティア保険をかけてください**。年度ごとにかけることとなります。（令和5年度は無料ですが、通常500円）

6 登録：・メール（ishikouken@gmail.com）で下記事項を送付

氏名；

住所；

携帯番号；

活動： 平日 土曜日 日曜日 祝日 該当に○

《事務局》 受付日：令和6年 月 日

珠洲焼展示室がある本両寺を見学しました。真脇縄文館は、耐震の工夫が施されており、特別収蔵庫はじめ指定の縄文土器類はほぼ無事でした。ただ、遺物収蔵庫は大きく被災しており、散乱した遺物箱の復旧が始まったところです。松波城は、国名勝に指定された庭園跡は大丈夫でしたが、町が史跡指定する城跡遺構は一部崩落しておりました。

本両寺は、柳田小間生にある寺院で、敷地内から数十点の珠洲焼が出土し、一括して町文化財に指定されています。境内の展示室が被災し、焼き物が横転し、かなりの数が、破損していました。ただ、建物に大きな被害はないので、移動の必要はありません。町担当者、寺院ご住職と協議し、石川考古学研究会ボランティア有志で遺物を接合復元し、展示室復旧のお手伝いをするようになりました。特別ご異議がないようでしたら、そのように進めます。

2024. 4.8 第7回ぶんぼう週次MTG

先週の活動を報告します。

4月6日7日の両日、中能登町から要請があり、国史跡

以外の史跡・遺跡の現状確認を石考研ボランティア有志で行いました。古墳、山城、須恵器窯の大きく3つの班に分け、現地を踏査しました。参加者は、のべ32名でした。調査結果は各班で今週中に報告にまとめる予定です。

なお、同様の現地確認調査を、13日以降、珠洲市で行う予定です。

今ひとつ、報告します。

輪島市門前に郷土史家として知られた佃和雄先生の旧ご自宅があります。先生は、生前、考古資料はじめ文化財等を自宅で多数保管、所蔵されておりました。ご子息に立会いいただき、輪島市の担当者とともに、被災したお宅を現地訪問することで日程を調整しています。損壊の度合いにより、緊急なレスキューが必要になる可能性があります。この件については、別途相談させて頂こうと考えています。

2024. 4.15 第8回ぶんぼう週次MTG 石考研の活動について、3件報告します。

1件目は、4月8・9日に実施しました、中能登町での史跡・遺跡の現状確認に関するものです。現在、報告をまとめていますが、横穴式石室の石積みが一部崩落している古墳が数か所あります。中能登町に限らず、七尾市、志賀町でも、同様の損壊が報告されており、被害が能登全域にわたることが推測できます。中には、県や市町指定史跡が含まれます。

復旧は、それぞれ、中期的・長期的視野で検討されるべきですが、危険防止の観点から応急処置を要する古墳が少なくありません。これについて、人手が必要ですので、各市町に対しお手伝いを申し出ております。段取りが整えば、今月末から順次作業にかかりたいと考えています。

2件目は、先週行った現地調査の報告です。4月13日より、珠洲市で史跡・遺跡および個人所有の考古資料等の現状確認を始めました。

本会は、昨年の6月から7月にかけて、同年5月に発災した奥能登珠洲地震による遺跡等の損害確認の現地調査を行っており、今年3月末に刊行した石川考古学会誌最新号に20頁ほどの報告を掲載しました。今回は、それを踏まえての調査になります。ただ、1年前と比べ、史跡・遺跡の被害は格段に大きいといえます。

一例を紹介します。珠洲市の南部、南黒丸に山の斜面に横穴を掘り、墓室にした横穴古墳群があります。今回、山の壁面が崩れ、墓室がぽっかり空いて連なる箇所が複数確認できます。刀剣・馬具など副葬品が落下したり、墓室が雨ざらしになるなど、2次被害が心配されます。

この案件は、文化財レスキューの範疇ではなく、埋蔵文



化財の緊急調査の対象と判断されます。この場に石川県教委文化財課の皆さんも参加されておられますので、被災自治体の置かれている現状をふまえ、善後策を策定頂くことを要望します。

最後に、先週紹介した、輪島市門前の郷土史家、故佃和雄先生の損壊したご自宅の件です。今週18日、ご子息の立ち合いで、輪島市担当者と共に実地調査を行います。すでに輪島市から救援要請が挙がっていますが、結果いかににより、別途検討が必要になるかもしれません。

2024. 4.22 第9回ぶんぼう週次MTG 石考研の活動について報告します。

先週の4月18日に、輪島市で郷土史家として知られた



佃和雄先生の門前道下にある自宅を、ご子息に立会いいただき、輪島市の担当者とともに、訪問しました。保管資料には、旧門前町および近隣の遺跡から出土した考古資料、在所の古文書類、蔵書・書籍、郷土史研究記録が含まれることを確認しました。

損壊の度合いにより、緊急なレスキューが必要になることも考えましたが、建物は「危険」という判定で、家屋内での作業も可能と判断されました。

今後もご子息の立ち合いのもとで分類整理をおこない、輪島市担当者と保管場所、その後の受け入れ先などについて検討し、今後は文防センターの皆さんとも相談させて頂こうと考えております。よろしくお願いします。

次に、先週から、珠洲市内での遺跡・史跡の現状確認を



実施しております。4月20日は、市内7か所の横穴古墳群を踏査し、4か所でがけ崩れによる被害を発見しました。調査は今後も継続し、5月5日には、ドローンを使い、横穴古墳群の確認調査を実施する予定にしております。

最後に一つ報告します。4月21に金沢大学が主催する「令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会」で同大学の足立拓朗教授が、「能登半島地震による文化財被災状況調査」と題し、本会の活動を報告し、また文化財防災センターの取り組みが紹介されております。

2024. 5.7 第10回ぶんぼう週次MTG 石考研の活動について報告します。

本会は、能登の被災市町に協力し、被災状況確認踏査と並行して、被災後の埋蔵文化財の保全活動も行っています。

4月28日（日）は、天井石が崩落して危険な状態となっていた志賀町千浦二子塚C1号墳の横穴式石室の土嚢詰め作業を行いました。本会会員有志、志賀町関係者、金沢大学考古学専攻生4名を合わせ、17名が参加しています。



また、作業に先立ち、3D撮影による記録を作成しております。

千浦二子塚古墳群は、能登半島富来の海岸に築造されており、戦後まもなく九学会による調査が実施されました。2011年から2013年まで、本会が中心となって墳丘測量、石室実測がおこなわれ、2014年に調査報告を刊行しています。現在、志賀町史跡に指定されており、地元の方々で下草が刈られ、遊歩道も整備されています。

当日午後、七尾市に移動し、同市指定史跡の三室まどがけ1号墳の横穴式石室崩壊状況について、3D撮影による記録を作成しました。本墳の石室は、被災前の状態が3D撮影されていますので、比較検討が可能となります。

あと一つ、4月20日以降、珠洲市内の横穴古墳や山城の被災状況の確認踏査を継続しています。市内のあちこちで、土砂崩れや斜面の崩落が確認できます。

市の史跡に指定されている岩坂向林横穴古墳群、南黒丸古墳群では崖面が崩落し、墓室がぼっかり空いた状態になっています。5月5日の踏査では、ドローンを使い、状況を撮影しました。この調査は、今後も継続する予定です。

2024. 5.13 第11回ぶんぼう週次MTG

前回からの続きですが、4月13日、20日、5月5日、12日の4日間、珠洲市内の史跡・遺跡の被災状況確認踏査を行いました。地震被害は大きく、岩坂向林横穴古墳群の一か所、南黒丸横穴古墳群の2か所で斜面が崩落し、墓室が露呈しています。5月12日は、岩坂藤瀬山横穴古墳群を踏査しました。斜面が崩落した箇所があり、舟の線刻で知られる、A1号墓の入り口が土砂で埋まり、外から見えなくなっていました。墓室に水がたまるなど、心配しております。

奥能登地域を俯瞰すると、土砂崩れによる被害は山城にも及んでいます。『北陸の名城を歩く 石川編』で紹介された珠洲市正院川尻城跡では、曲輪に亀裂が走り、一部の遺構が崩落しています。隣接する能都町の町史跡松波城も一部崩落しています。

輪島市を含め、丘陵斜面の崩落や地滑りなどにより、奥能登の少なくない埋蔵文化財が被害を受けています。その状況について、本会は、現在、報告をまとめています。県文化財課の皆さんも出席されておりますが、近いうちに私どもの調査結果を持参します。文化財課としても被害実態の把握に努めて頂き、今後について意見交換ができればと考えています。

2024. 5.20 第12回ぶんぼう週次MTG

能登の全域で横穴式石室古墳の石積みが崩落する被害が出ていることはすでに報告しておりますが、関連する取り組みを紹介します。

5月2日と3日の2日間、石川考古学研究会の有志で、公立小松大学次世代考古学研究センターの野口淳特任准教授のご協力を得て「能登半島地震被災文化財計測支援」講習会を実施しました。被災した横穴式石室を念頭に、復旧に向けた現地の記録保存を行うにはどうしたらよいか、

どのような手法があるのかを学ぶ機会となりました。メンバーは口能登～中能登の若手職員を中心に、加賀地域や県埋蔵文化財センターからも参加がありました。

2日は、宝達志水町の散田金谷古墳石室の3次元計測に始まり、デジタルカメラ撮影による最新のレーザースキャ



ナーを用いた石室・墳丘の計測、ドローンによる空中撮影等多岐にわたる充実した講習となりました。3日は七尾市に場所を移し、院内勅使塚古墳石室、三室まどがけ1号墳石室の計測と崩落した崖のドローン撮影等を行いました。

本支援事業は、日本文化財保護協会と公立小松大学が締結した能登半島地震支援協定にもとづき実施されたもので、快く野口さんを派遣いただいた両機関に深く御礼申し上げます。

2024. 5.27 第13回ぶんぼう週次MTG
先週の活動について報告します。

5月23日に、石考研3名がぶんぼう現地救援本部の文化財レスキューに体験参加しました。輪島市内の寺院から仏像・仏具を救出するものでした。2班に分かれ、事前の準備のもとで手際よく梱包作業が進められていきました。



私たちはほんのお手伝いでしたが、日頃接していないことですので、大変勉強になりました。関係の皆さまに厚くお礼申し上げます。

今回、北は岩手県、首都圏はじめ名古屋、奈良などから参加された皆さんと仕事ができ、またご住職から思いを直接お聞きすることができました。さらに同じ県内にいながら、あまりご一緒する機会がなかった県歴史博物館の皆さんと同じ取り組みができたことも収穫でした。こうしたつながりをつくっていくことも大事なことで実感しております。

2024. 6.3 第14回ぶんぼう週次MTG

今回は、全国的な考古学関係学会との連携について報告します。

日本考古学協会は、文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体の一つです。

同協会に常設されている防災対応委員会と、発災以後、情報共有につとめ現在に至っています。5月25日に千葉で開催された同協会の総会で、防災対応委員会の委員が補充され、石川から金沢大学の足立拓朗さんと私、河村好光、富山から富山大学の高橋浩二さんが新たに委員に選任されました。また、ポスターセッションで防災対応委員会による「令和6年能登半島地震被災文化財・埋蔵文化財の現状」と題した発表が行われました。

なお、4月20日に、本会代表幹事が考古学研究会総会で「令和6年能登半島地震における文化財保護の現状と課題」と題し報告しています。今後も、考古学関係学会とも連携しながら取り組みをすすめていきたいと考えています。

2024. 6.10 第15回ぶんぼう週次MTG

輪島市での活動について報告します。6月8日に以前に紹介した故佃和雄先生の資料レスキューのお手伝いをしました。

ご子息により、お宅は修繕してお住まいになるとのことです。資料・書籍等の内、古文書および郷土誌資料、考古資料を輪島市所定の保管施設に移動、整理しました。資料類は、生前に整理されていたもので、ご子息によって一室で整頓保管されており、その状態のまま軽トラックで運びました。古文書類は、市の文化会館4階の一室、考古資料旧西保小学校の埋文収蔵室に運び入れ、それほどの量はありませんが、市の方で、専門家のご意見も踏まえ、保存、活用等について検討されるとのことです。

今回は、参加者10名で、実質は運ぶだけのことでした。ただ土器の破片や鉄さいなど、重い考古資料コンテナを移

動させる場合、市町担当者 1 名程度では難しく、人手が必要です。こうしたことにも目配りしながら、取り組みを続けていきたいと思っています。

2024. 6.17 第 16 回ぶんぼう週次MTG

先週は野外での活動はお休みでしたが、15 日に年一回の総会が行われました。

能登半島地震に伴う文化財レスキューをめぐり、各市町での取り組みを報告し、現状や課題について意見交換を深めました。今後は、それらをもとに、レスキューに参加している皆様、他の民間研究団体とも連携や認識共有を図っていきたいと思っています。また、県文化財課とも意見交換の場を持ちたいと考えています。

2024. 6.24 第 17 回ぶんぼう週次MTG

石考研では、現在、これまでの活動の振り返りをおこなっています。

会員で行っている現地訪問と埋蔵文化財を中心とする文化財レスキューは、2 月 17 日にはじまり、6 月 8 日まで、土日休日を中心に 18 日を数えます。また参加者は、延べ 127 名となっています。どれだけ被災自治体のお役に立っているのか、甚だ不安でもあります。僅かですが手ごたえも感じております。来月からは、天候等も考慮し、屋内作業に軸足を移していこうと考えています。

2024. 7.1 第 18 回ぶんぼう週次MTG

石川考古学研究会の河村と申します。副会長をしております。

今回は、石考研としても、これまでの活動を振り返り、今後の課題について、2, 3 の問題提起をさせていただきます。

7 月の石考研の取り組みは、展示施設の復旧や埋蔵文化財収蔵庫の整理などの屋内作業や活動報告作成を中心に行う予定にしております。

石川は、現在、梅雨入りしています。その先の予報によると、夏は記録的な酷暑で、かつ猛暑が厳しく長いとのこと。この間における炎天下の屋外作業は、好ましいとはいえません。レスキューの日程内容を大胆に見直し、健康面も考慮し、抑制された環境での活動を求めます。

一方、年間気候も気になります。北陸では天気の良い秋は短く、11 月になると雨が続きます。12 月以降は、風雪の季節となり、現場作業は困難になっていきます。また慣れない雪道での事故を心配しております。

このような条件をふまえ、年間における持続可能な取り

組みの日程や内容を中期的視点で再構築していく必要があると考えます。

今必要なことは、現状の救援体制を見直し、県に加え、被災被害の少ない県内市町の職員も救援に参加できる体制を構築することです。

オール石川の態勢づくりにむけ、文化財防災センター、各市町、県教育委員会と県の関連機関、県内支援協力団体による検討会の開催が急務ではないでしょうか。

地震発災から 6 カ月、半年になります。一度はたちどまり、経過を振り返り、意見を交換するなかで、今後の課題をみんなで考えいくことが重要だと思います。

2024. 7.8 第 19 回ぶんぼう週次MTG

前回のミーティングで、発災 6 カ月の節目にあたり、今後の課題について、2, 3 の問題提起をさせていただきました。ご検討頂いているとのこと、感謝申し上げます。

今回は、これから予定している取り組みについて、報告します。以前に一度触れましたが、ぶんぼうの救援リストに登録されている、能登町の柳田小間生にある寺院境内に設けられている展示室の復旧についてです。

かつて寺院敷地内から珠洲焼に遺骨を埋納した墓が発見されました。出土した珠洲焼は、数十点ありました。これらは、境内に展示室をもうけ、陳列展示され、一括して町文化財に指定され、現在に至っています。

今回の地震で、珠洲焼が横転し、かなりの数が、破損しました。ただし、建物に大きな被害はなく、出土品を移動する必要はありません。町担当者、寺院ご住職と協議し、本会有志で焼き物を接合復元し、展示室復旧のお手伝いをする事になりました。作業は、7 月 13 日と 14 日を予定しています。

2024. 7.15 第 20 回ぶんぼう週次MTG

石川考古学研究会では、先週の週次 MTG でも報告しましたが、救援リストにある能登町寺院がもつ展示施設のレスキューを 7 月 13 日と 14 日におこないました、

13 日は主に展示品である破損した珠洲焼壺などの接合や補填材による補修を行ったほか、展示施設や備品の補修・清掃などをおこない、展示再開に向けての準備をおこないました。

14 日は修復した珠洲焼の仕上げ作業とともに、展示作業をおこないました。展示品にテグスを張ることで地震への対策としたほか、珠洲焼を 3D による現状での記録作成を行い、基礎資料を作りました。

すべての展示品にテグス張りする時間がなかったので



すが（あと数点です）、能登町教育委員会の文化財担当に委ねることとしました。（伊藤）

2024. 7.22 第21回ぶんぼう週次MTG

石川考古学会の河村です。今回は、文化財レスキューの目的と成果、先人から受け継いだ文化財を後世に伝える意義を市民・町民に知ってもらうための取り組みについて、紹介します。

七尾市のと里山里海ミュージアムでは、6月29日から9月30日まで、「時代（とき）の記録－眠れるモノたちの囁（ささや）き－」と題した企画展が開催されています。能登半島地震で被災した金刀比羅神社の棟札（むなふだ）はじめ、市内の建造物から見つかった文化財が展示され、救出の様子も再現されています。

能登町立美術館では、7月9日から「救出された地域の歴史・文化資料」展がはじまっています。あたらしくみつかった犬養毅の書はじめ、12点の救出文化財が展示され、解説されています。なお、同町教育委員会が4月5日から発行している「能登町文化財レスキューニュース」は、すでに第7号を数えています。

また羽咋市歴史民俗資料館でも、スペースを割いて、「救出された地域の文化財」と題した同趣旨の展示会が開催中です。

このように、当地では、能登半島地震による文化財救援事業開始から半年も経ないうちに、被災自治体による、その成果と意義を還流する企画が始まっています。将来に希望をつなぐ、おおきな取り組みであることを実感しております。できましたら、防災センターや国・文化庁の方でも、広く紹介して頂き、現場の元気、やる気につなげて頂ければと思います。

註)

掲載文は、事前に河村が文案を作成し、役員間で検討のうえ発言した内容です。討議中発言は割愛しています。

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第7号 発行日：令和6年6月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあっています。救出後は、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を要します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【5月21日 宇出津 川谷家】

川谷家では、文化財防災センター、いしかわ史料ネット、町職員ら10人が作業にあたりました。品物がある2階に上がる階段が壁の倒壊で一部塞がれていたため、かろうじて空いた隙間を通っての救出作業となりました。

地震の影響で物が散乱した状態のなか、部屋の奥からは明治時代の帳簿などを救出しました。屏風も多く、内側に古文書が使われているものもありました。掛け軸の中には、日本陸軍軍人で日露戦争の旅順攻堅戦で知られる乃木希典の書とみられるものもありました。また、屏風では、宇出津ゆかりの作品とみられるものも確認されました。



木箱に詰められていた近代の古文書（川谷家）



宇出津ゆかりの作品とみられる（川谷家）

【5月25日 宇出津山分 久田家】

久田家では、いしかわ史料ネット、町職員ら11人が作業にあたりました。

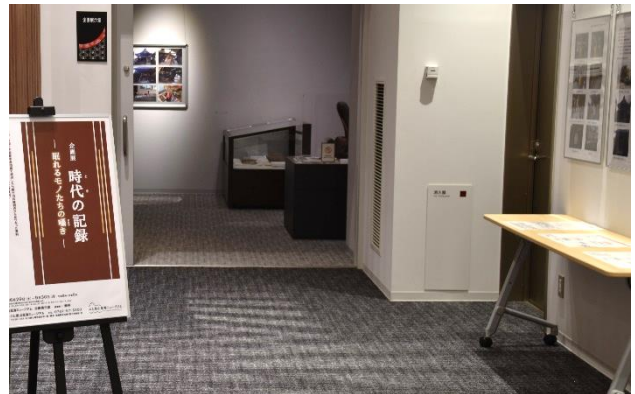
前半は、一般社団法人・能登地震地域復興サポートと協力して、輪絵巻の復元約50人前などを選び出しました。津波はこの後、復興サポートの手で洗浄され、希望者に引き渡されます。後半は、江戸時代から近代の古文書や、下張り



久田家でのレスキュー作業

文化財レスキュー・本紙に関するお問い合わせ ☎（0768）62-8537（能登町教育委員会事務局）

能登町教育委員会文化財係発行



七尾市のと里山里海ミュージアム



羽咋市歴史民俗資料館

2024 年 7 月 1 日

能登半島地震文化財（遺跡）被災対応 発災 6 カ月（写真）

石川考古学研究会

●中能登町

雨の宮古墳群（国指定史跡）



復元墳丘に無数の亀裂、葺石崩落

徳前 2 号墳（町文化財）



横穴式石室側壁が崩落

●七尾市

金刀比羅神社 文化財レスキュー予備活動(2 月 12 日)



三室まどかけ 1 号墳（市文化財）



上:被災前(奥壁から) 下:被災後(羨道から)

●志賀町

倉垣丸山古墳（市文化財）



横穴式石室側壁が崩落

千浦二子塚古墳群 C1 号墳（町文化財）



天井石が崩れて落下



土嚢を詰め、崩落防止・現状保全(5月7日／石考研)

地頭町中世墳墓窟群（県文化財）



五輪塔、宝篋印塔等が崩れ一部が崖下へ落下
雄谷家（県文化財、江戸中期後半）



●穴水町

明泉寺



石造五重塔(国重文、室町)上部にずれ(3月10日)



“明泉寺石塔群在地”（県文化財）の倒壊状況(同上)

●能登町

松波城址(国名勝庭園)



松波城の町指定曲輪が土砂崩れ

真脇縄文館



展示室(床に破損した県指定の縄文土器)



収蔵遺物の復旧作業

柳田・本両寺



珠洲焼が転倒している展示室

●輪島市

上時国家(国重文)



黒島／角海家 重伝建地区の建材(2月24日)



中段板碑(県文化財)



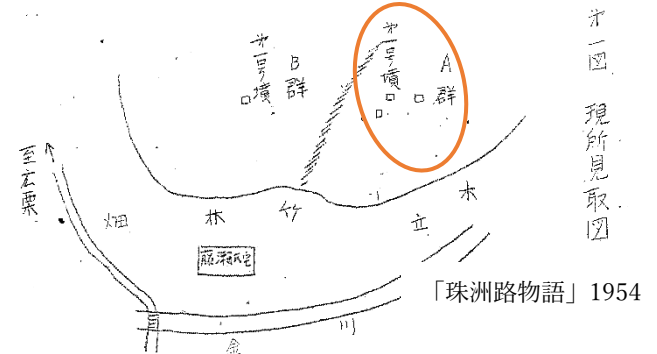
稲舟横穴古墳群のある斜面



故佃和雄先生宅文化財レスキュー（4月18日）



岩坂藤瀬山横穴古墳群



●珠洲市

岩坂向林横穴古墳群（市文化財）



崖面に現れた2～5号墓の開口部



舟の線刻で著名な藤瀬山1号墳が土砂崩れで埋まる

南黒丸横穴古墳群



墓室が露呈し、入り口が土砂で埋まる



ドローンによる撮影確認

※会員撮影画像より作成

正院川尻城跡



曲輪 A 南東側に亀裂